

訪問看護が入っていても防げなかつた
そのまま、家庭内への支援が入らない
事に将来を悲観した家族が事件を起こしてしまったようでした。保健所からの家庭訪問もご本人にはなかなか会えず、継続支援も困難だったようで、次第に家族が疲弊してしまったという記事でした。

先日の読売新聞記事に、精神科病院に受診はしていたものの、家族関係が悪化した結果事件になってしまった、という話が掲載されていました。記事では、家庭内暴力について家族が警察に相談に行くと、精神疾患があるため保健所に相談に行くよう言われてしまつたそうです。

そのまま、家庭内への支援が入らない事に将来を悲観した家族が事件を起こしてしまつたようでした。保健所からの家庭訪問もご本人にはなかなか会えず、継続支援も困難だったようで、次第に家族が疲弊してしまつたという記事でした。

昨今アウトリーチという言葉をよく聞くようになりました。本来ならば決まった場所・施設などで実施することを、その対象者のところまで出向いて実施することを言います。また“手を伸ばすこと”とも訳されます。

訪問看護はまさにアウトリーチな支援ですが、地域でまだまだ足りていないのが現状です。



お問い合わせ番号
06-6310-8480
ハントン訪問看護ステーション

アウトリーチは万能ではありませんし、支援者一人ひとりの力量やアドリブ力・現場対応力によって印象が大きく変わります。訪問看護を必要としている人に少しでもイメージしやすいように、この春冊子をリニューアルしました。クリニックなどに置かせて頂きますが、ご希望の方には郵送いたしますのでご連絡下さいませ。

アウトリーチ機関とうまくマッチングすれば、そして根気強く関わることが出来れば、少しでも希望や安心を感じることが出来る日が訪れるのではないかと思うのです。

かもしれませんが、先の見えない生活中で、追い詰められたご家族や当事者の心中を想うと、何かしらのアウトリーチ支援が介入できていれば何か違う提案が出来たかもしれないと考えてしまいますが、訪問看護は事業所によつてカラーが様々ですから相性も大切ですが、その方にあうアウトリーチ機関とうまくマッチングすれば、そして根気強く関わることが出来れば、少しでも希望や安心を感じることが出来る日が訪れるのではないかと思うのです。

何か考える時に、なるべく大きな紙を用意して、思いつくことを文字やイラストにするようしています。

ある大手文具会社の企画部署には、パソコンがなく、全員が手書き・手描きをすることになつてゐるそうです。アイデアを出すときは、手がきが良いようです。

何か一つの本を読んで、それについて要点をまとめたりすることもありますが、私がお勧めしているのは、自分という大きな寸胴鍋があるイメージです。読んだ本や経験した事、観た映画、人との出会いなどをその鍋にどんどん放りこんでいきます。そして寸胴鍋の下の方には小さな蛇口が付いていて、そこを開くとボタボタとエキスが出てきます。

そのエキスを大きな紙に描いていくのです。似たようなことを何度も書いてしまつたり、9割がボツになつたりします。でもそれで良いのです。

ハントンの利用者さんにも、書くことを提案することがあります。何かの紙の裏を使って絵を描いたり、地図を描いたり、家系図を描いたりします。何かの裏紙だから、緊張感なく書くことが出来るのが良いみたいです。

これまでの事、今のこと、これから的事情など整理しながら書くことで、気持ちがすっきりするようです。



書くこと、描くこと

パレットでは入居者さんと世話人とで毎月パレット通信を作っています。
一ヶ月を振り返って、想い出を味わったり、来月にしたい事を考えたりします。
パレット通信は、ご家族や主治医などに郵送してみてもらうようにしています。

紫金山公園でお花見をしました。
まるで映画のポスターのような写真が撮れました。